

令和元年12月25日
伊那市地方創生総合戦略審議会

1 Society5.0とは

狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、日本が目指すべき未来社会の姿として国が提唱した新たな社会。

Society5.0で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、また、ドローンやセンサーなどの新しい技術や、人工知能（AI）などを活用することで、少子高齢化・過疎化などによる人手不足などの地域課題に対応できる社会。

2 伊那市での事例

（1）獣害被害対策用くくりワナセンサー

獣害対策用に設置したくくりワナの作動をセンサーが感知した際に、無線でサーバーに接続し、メール等で携帯端末に知らせるシステム。

今までは定期的な見回りが必要であったが、このシステムを活用することにより、ワナの作動報告があった場合のみ、ワナに獲物がかかった前提で設置場所に行くことが可能となり、猟友会員等の見回り労力の軽減が図られる。

（2）ドローン物流

買物支援の担い手不足や非効率な荷物配送の環境改善に向け、ドローンを用いた「配送システム」とケーブルテレビのリモコンを使った「注文システム」による買物支援システム。

このシステムを活用することにより、配送の担い手不足が懸念される地域において、継続した買物支援が可能となる。

（3）ぐるっとタクシー（AIを活用した乗り合いタクシー）

複数の乗車希望に対して、AIが最も効率的な相乗りのルートを実タイムで瞬時に判断し、タクシーの乗務員にルートを伝達する配車システム。

今までは乗車予約締切時間を設けた上で人的に配車を行っていたが、このシステムを活用することにより、人手不足地域において、限られたタクシーでリアルタイムでの乗車希望への対応が可能となる。